



5月号

令和 5年 4月 25日
横浜市立 星川 小学校
校長 いがらし あきら
五十嵐 玲
TEL.332-2101 FAX.331-5052

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hoshikawa/>



「『聴く』ということ」

校長 五十嵐 玲

本校の正門を入ると藤棚があり、とても素敵で紫色の花を咲かせています。先日、地域の方から教えていただいたのですが、藤の花を咲かせるには、剪定がポイントだそうで、上手に剪定すると、きれいな花が数多く咲くそうです。また、以前は、その藤棚には、白い花を咲かせる藤の花も植えられていたようですが、残念ながら枯れてしまったとのこと。

少し調べてみると、藤の花の歴史は古く、枕草子の84段には「めでたきもの」として「色あひ深く花房長く咲きたる藤の花、松にかかりたる」（色合いが深く花房が長く咲いている藤の花が松の木にかかっている姿はすばらしい）とあり、庭の藤を愛でる言葉は、万葉集にも見られるそうです。



ちなみに、現在放映中のアニメでは、その根拠は定かではありませんが、鬼は藤の花が大変苦手であるとされています。本校の藤棚で美しく咲いている藤の花が、子どもたちを様々な鬼たちから守ってくれることを祈りたいと思います。

さて、始業式の日、子どもたちに「聴く」ということを大切にしてほしいと話をしました。「聴く」という漢字を分解して、「目+耳+心=聴く」ととらえ、話を聴くときは目と耳と心で聞いてほしいと伝えました。このことは、入学式の際にも1年生にも簡単に話をしています。

さらに、本校の職員には、先日の打合わせで、次のような話をしました。

聴く

「教育哲学者のネル・ノディングズという方が、次のようなことを言っています。

『子どもの発言の意味を受け止める教師は多いが、発言する子どもの存在をまるごと受け止めている教師は少ない。』

子どもの話や発言の意味や意図を受け止めることはできている方が多いのではないかと思います。果たして、その発言をしている子どもの存在そのものをまるごと受け止めている人はどのくらいいるのでしょうか。そのことは、子ども同士、教職員同士、教職員と保護者との関係でも言えることであり、その言葉を発している人の存在そのものを認め、受け止める、そのような話の聴き方を、そして関係づくりを、この1年間、特に大切にしていきたいと考えています。」

話を聴くという行為は、相手の存在を認めること、または、相手の人格を尊重することにもつながるととらえることができます。本校では、4月号でもお伝えした「子どもが主語となる学校づくり」の基盤として、「聴く」という姿勢を大切にしていきたいと考えております。今後とも、本校の教育活動に、地域の皆様、保護者の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。